

松戸市・新拠点ゾーン

パブリックスペースからの まちづくりワークショップ 第1回、第2回が開催されました！


<https://www.facebook.com/2022WSmatsudo/>


日 時：事前授業令和4年9月8日～16日

ワークショップ9月21日、27日

会 場：相模台小学校

参加者：相模台小学校6年生（117名）

主 催：松戸市公園緑地課・松戸駅周辺整備振興課

運 営：株式会社 UR リンケージ・設計組織プレイスメディア
千葉大学大学院園芸学研究所

協 力：聖徳大学教育学部

令和4年9月21日・27日に、新拠点ゾーン・パブリックスペースからのまちづくりワークショップの第1回、第2回として相模台小学校6年生(117名)を対象に、ワークショップが開催されました。このワークショップは松戸駅周辺のまちづくりと新拠点ゾーンの整備・公園再整備に向けて、小学生の街への認識を調査することを目的としています。総合の授業にて計4時間の事前授業を行い、まちづくりについての学習、保護者世代の意見調査、現在の松戸の街の調査分析等を行いました。ワークショップ第1回では、まちあるきによって街の特徴と課題の把握を行い、ワークショップ第2回では、調査をもとに、小学生ならではの「まちづくりプラン」の提案をしました。

事前授業1「まちづくり」について学ぶ 9/8(木)



市職員より新拠点ゾーンのまちづくりの説明を行いました。事業の趣旨を理解すると共に、他の市のまちづくりについても学びました。また、市職員から小学生へ「まちづくりプラン」の作成が依頼されました。

2-2) 子育て世代の目線で考える編 9/15(木)

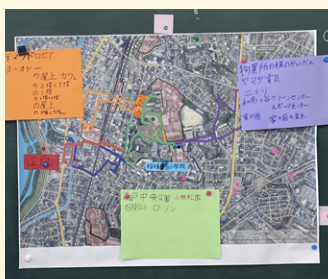


子育て世代の街への認識を深めるために、保護者へ「まちなかスポット」についてのインタビュー調査と、分析を行いました。授業参観にて保護

事前授業2「松戸駅周辺エリアの調査分析をしよう」 2-1) 小学生の目線で考える編 9/14(水)



まずは「自分にとっての街」について考えました。街の中での気に入りの場所について思い返し、自分の好きな「まちなかスポット」を選びました。松戸中央公園には「まちなかスポット」が集中し、多様な目的で利用されていることがわかりました。相模台公園を「まちなかスポット」に選んだ小学生は数人しかおらず、「まちなかスポット」としての認識が低いことがわかりました。



者参加型で開催され、子どもと過ごす時に自然を感じたいという視点や、歴史を学ぶ文化教育的な視点が見られました。イベントが開れる場所を「まちなかスポット」に選ぶ人も多数見られました。

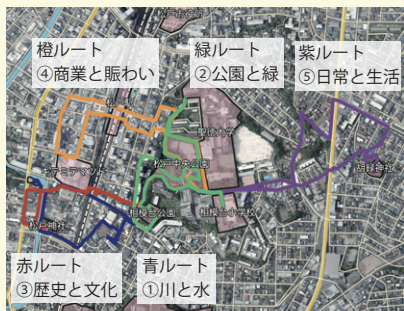
2-3) まちあるきルートの事前調査編 9/16(金)



「まちなかスポット」の分布を踏まえて街の中の特徴・課題などを書き出していきました。まちあるきルートの5班に分かれ

て、川で自然と触れ合える場所があること、駅の近くは様々なお店があって便利なこと、街灯が少なく暗くて怖い場所があることなど、普段街で感じていることを班で話し合いました。

ワークショップ第1回 「まちあるき」をして調査しよう 9/21(水)



班に分かれて5つのルートでまちあるきを実施しました。

①「川と水」：坂川や暗渠、②「公園と緑」：松戸中央公園や相模台公園、③「歴史と文化」：旧水戸街道や



松戸神社、④「商業と賑わい」：駅前商業施設、⑤「日常と生活」：東側住宅地や胡録神社
まちあるきでは隠された水の通り道である「暗渠」を発見したり、斜面林の木陰の涼しさを感じたりなど実際に街を歩き発見したことがたくさんありました。古写真を見ながら、街の特徴を発見する様子も見られました。まちあるきで発見した特徴・課題を踏まえ「まちづくりプラン」の提案箇所を決めていきました。



ワークショップ第2回 「まちづくりプラン」をつくらう 9/27(火)



各班の中で、選んだ3つの提案箇所に対して、どのようにまちづくりをしたら良いのか「まちづくりプラン」を考え、具体的な街の未来像を提案しました。中には提案を分

かりやすく説明するために、スケッチを作成する班もありました。作成した「まちづくりプラン」を班ごとに発表し、小学生、松戸市の職員、大学の教授、大学生と各々の視点から意見交換をしました。特に小学生同士で活発に意見交換をする姿が印象的で、まちづくりへの関心の高さを感じました。

クラス	テーマ(班)	「まちづくりプラン」のタイトル
6年1組	川と水	大人から子供まで安全に水の音を味わえるスポット
	公園と緑	はばひろい世代で年中身近に楽しめる
	歴史と文化	もっと活気あふれる 訪れた人に歴史を感じられる
	商業と賑わい	様々な人がお店を通して交流できる街
	日常と生活	みんなが行きたくなる人気な場所
6年2組	川と水	水や歴史とふれあえる場
	公園と緑	にぎやかで楽しく安心安全
	歴史と文化	春夏秋冬で歩くのが楽しい街
	商業と賑わい	文化を大切にしながら明るい土地をつくる
6年3組	川と水	安心安全で歴史を学ぶことで人が集まって住みやすい場所
	公園と緑	生物も人も安全に過ごせる場所
	歴史と文化	美しい自然、安心してすごせる公園
	商業と賑わい	様々な年代に親しみやすく愛されちゃう松戸
6年4組	川と水	駅周辺便利化プラン
	公園と緑	住宅地を豊かにしよう!
	歴史と文化	キテミテ親水広場
	商業と賑わい	自然の中で安全に楽しく過ごせる便利な場所
6年5組	川と水	歴史と自然に触れ合える街
	公園と緑	多様性の松戸
	歴史と文化	人が使いやすくて活気のある松戸
	商業と賑わい	

「まちづくりプラン」～小学6年生からの提案～



小学生の「まちづくりプラン」まとめ

①「川と水」

- ・水質や植栽管理の改善により生き物呼び込み、より生き物と触れ合える場所にする。
- ・河川空間を地域の人がつながるコミュニティの場にする。
- ・スロープやデッキを作り川に近づく場所を作る。

②「公園と緑」

- ・公園と街の動線を見直し、アクセス性を向上させる。
- ・暗い場所や見通しの悪い場所を改善し、安全性を確保する。
- ・老朽化した施設の改善や、階段に手すりをつくるなど、ユニバーサルデザインを取り入れる。
- ・キッチンカーの導入、お花見ツアーなど、様々な利用ができる公園をつくる。

③「歴史と文化」

- ・神社境内で春夏秋冬に応じたイベントを開催する。
- ・植栽の管理を市民参加で行いコミュニティづくりをする。
- ・QRコードを設置し、歴史を学ぶことができる場を作る。

④「商業と賑わい」

- ・東西のアクセス向上、ペDESTリアンデッキの高低差改善など誰もが利用しやすいユニバーサルデザインにする。
- ・西側商業エリアへ緑を増やす。
- ・西側デッキをキテミテマツドまでつなげる。

⑤「日常と生活」

- ・神社の樹林や斜面林などの手入れを行い、景観を確保する。
- ・昔からある畑を生かして農業体験、歴史体験ツアーをする。
- ・見晴らしの良い場所に展望台を作り、みんなが集まれる場所にする。

今回の成果は、新拠点ゾーンにおける松戸中央公園・相模台公園のリニューアルに生かしてまいります。

松戸市・新拠点ゾーン

パブリックスペースからの まちづくりワークショップ 第3回が開催されました！

日 時：令和4年12月17日

会 場：松戸市民会館

参加者：27名

主 催：松戸市 公園緑地課・松戸駅周辺整備振興課

運 営：株式会社 UR リンケージ

設計組織プレイスメディア

協 力：千葉大学大学院園芸学研究科

【参加者】

「暮らし」に関わる市民
地元町会自治会（15名）
地元大学生（12名）

【ディスカッションサポート】

横張 真 教授（東京大学大学院 工学系研究科）

宮城 俊作 教授（東京大学大学院 工学系研究科）

武田 史郎 教授（千葉大学大学院 園芸学研究院）

霜田 亮祐 准教授（千葉大学大学院 園芸学研究院）

令和4年12月17日に、新拠点ゾーン・パブリックスペースからのまちづくりワークショップの第3回を開催し、新拠点ゾーン周辺の「暮らし」に関わる地元自治会の皆様と、地元の大学生、計27名にご参加いただきました。このワークショップは、街の新しい「使い方」を話し合い、新拠点ゾーンの公園の「あり方」や、新しい「使い方」を見出すことを目的に行われました。日々の暮らし・生活・安全安心を軸とし、日常生活を重視した「使い方」について多くの意見が出ました。松戸中央公園や相模台公園の既存樹は、残すもの、更新するものをしっかり整理しながら大事に継承することや、賑わいや憩いが生まれる広場づくりについて盛んに議論されました。



松戸市による事業説明

新拠点ゾーンに関わる事業の概要や、現状の特徴と課題について説明を行いました。市民にとっての賑わいや憩いの場となることと同時に、地盤の安定した台地上であることから防災拠点としてのポテンシャルが見込める点等、ポイントとなる事項を述べました。

千葉大学による学生提案のプレゼンテーション



地元の大学生であり、まちづくりやランドスケープデザインの専門科でもある千葉大学大学院園芸学研究科より、新拠点ゾーンに関する研究・提案のプレゼンテーションが行われました。事業計画や2019年ワークショップ（MATUDOING2050）成果の読解研究から、新拠点ゾーンの計画には「新しいライフスタイルに対応し多様な活用の可能性を広げること」「日常利用や防災などオープンスペー

スの機能を高めること」「地域の特性を活かした空間をつくること」が必要であることを再確認しました。提案では、多様なアクティビティを展開できる大きな芝生広場や、街を彩る四季彩の丘、新たな取り組みが生まれる社会実験の場など具体的な空間像が盛り込まれ、松戸中央公園と相模台公園を含む敷地全体を一体的に捉えた大胆なプランが示されました。参加者が新拠点ゾーンの「使い方」のイメージをふくらませるきっかけとなりました。

横張 真先生によるレクチャー



松戸が選ばれる街になるにはどのようなパブリックスペースが必要か、昨今のライフスタイル・ワークスタイルの変化における緑地の利用状況調査をもとにレク

チャーいただきました。在宅勤務者をはじめとした新たな緑地の利用者層が増えたことや、感染症リスクへの懸念から大きな公園・緑道・樹林地の需要が高まっている事がわかりました。新たな需要を踏まえて松戸の街の「使い方」を考える本ワークショップの心得として、常識にとらわれないこと、本当にほしい場を考えると、お互いの意見を否定しないこと、の3点を参加者にインプットしていただきました。

ワーキング① 街の「使い方」を考える



松戸のパブリックスペースをどのように使いたいか、どのような過ごし方をしたいかについて考えました。

【STEP 1 ひとりで考える】

街の「使い方」のアイデアを書き出しました。

【STEP 2 ふたりで考える】

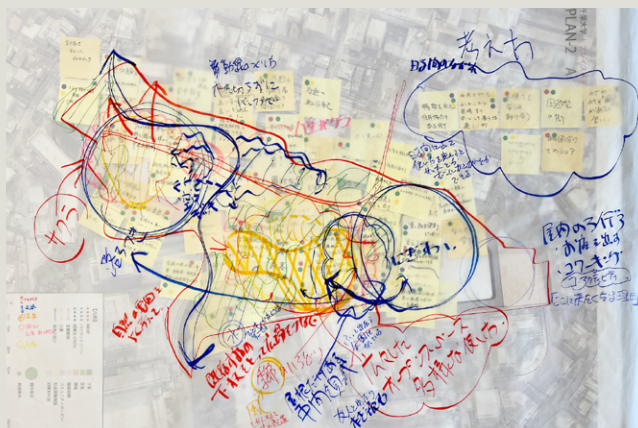
参加者同士でペアを組み、アイデアを発表し合って意見交換を行いました。

【STEP 3 みんなで考える】

最後に全体を2グループに分け、各グループで発表・議論を行い、街の新しい「使い方」のアイデアについてまとめました。



ワーキング② 新拠点ゾーンの「使い方」を考える



参加者全員で1つのテーブルを囲み、ワーキング①で発想した「使い方」のアイデアを具体的に地図上に配置しながら、全体でひとつの成果プランを作成しました。

【成果プランのポイント】

- ・駅からの軸上の新拠点ゾーン北側を「にぎわい」、相模台公園エリアを「落ち着き」の空間として整理する。
- ・広々としたオープンスペースで多様な使い方ができるようにする。
- ・時間によって使い方を変えることができる広場とする。
- ・友人とゆったりと本を読むことができるような落ち着いた場を設ける。
- ・パブリックビューイングや映画などを屋内と屋外の間領域で開催する。
- ・お店を出すことができたりコワーキングスペースとして使える施設を設ける。
- ・既存樹は残しながら下枝を整理し、見通しや広場の連続感を確保する。
- ・思い入れのある八重桜を残し、記憶を継承する。
- ・相模台公園の既存の桜を活かし、お花見ができる場を設ける。
- ・季節の彩りや虫も考慮した植栽計画とする。
- ・松戸中央公園エリアと相模台公園エリアを空中デッキでつなぐ。
- ・風など自然の要因も考慮した計画を作成する。



イベント	盆おどり パブリックビュー（スポーツ観戦）
運動	バスケット(3on3) 卓球 ダンスの練習（全身鏡付き）
お葬式・お墓	屋外でお葬式・お墓（樹木葬）
映画	ナイトシアター・自然に囲まれて映画を観る
キャンプ	キャンプ たき火でやきいも
飲食	角打ちBAR 「食」などをテーマにしたようなイベント
コミュニティ	友達と話したりちょっとした時間を潰せる場 世代を超えた人々との交流ができる場所・イベント
ワーキング	外で友達と授業 誰かと一緒に仕事をする
眺望	気持ちのいい眺めの場がほしい 富士山への眺望を望む
音楽	のびのび楽器を演奏したい 屋外で演奏を聴きたい
買い物	フリーマーケット、マルシェ 様々なお店が出店しているイベントに参加したい
休息	公園で緑を感じながらのんびりくつろぎたい（テラスやベンチ） 日なたぼっこが・緑の多い所で昼寝
個人の活動	1人でゆっくりできる
子供の遊び	保育所の園児が安心して遊べる空間としたい 子供安心して遊ぶ（安全・見通しが良い・アクセスが良い）
自然体験	自然探索をしたい 樹木をうまく使った空中散歩
斜面の遊び	長いすべり台 長いそうめん流し
ペット	緑を残し、野生動物とも共存できるドッグラン
ハンモック	木のハンモックでコーヒーを飲んで本を読む
散歩	散歩をしたい
水に関して	水で楽しむ
本関連	好きな本を持ち寄って交流 子供に読み聞かせ
防災	避難広場として使う

街の新しい「使い方」のアイデア（主なものを抜粋）

松戸市・新拠点ゾーン

パブリックスペースからの まちづくりワークショップ 第4回が開催されました！

日 時：令和4年12月24日

会 場：松戸市民会館

参加者：20名

主 催：松戸市 公園緑地課・松戸駅周辺整備振興課

運 営：株式会社URリンケージ

設計組織プレイスメディア

協 力：千葉大学大学院園芸学研究科



https://www.facebook.com/2022WSmatsudo/



【参加者】

「賑わい」に関わる市民

松戸駅周辺事業者・まちづくり団体（8名）

地元大学生（12名）

【ディスカッションサポート】

横張 真 教授（東京大学大学院 工学系研究科）

宮城 俊作 教授（東京大学大学院 工学系研究科）

武田 史郎 教授（千葉大学大学院 園芸学研究院）

霜田 亮祐 准教授（千葉大学大学院 園芸学研究院）

令和4年12月24日に、新拠点ゾーン・パブリックスペースからのまちづくりワークショップの第4回を開催し、新拠点ゾーン周辺の「賑わい」に関わる松戸駅周辺事業者、まちづくり団体の皆様と、地元の大学生、計20名にご参加いただきました。このワークショップは、街の新しい「使い方」を話し合い、新拠点ゾーンの公園の「あり方」や、新しい「使い方」を見出すことを目的に行われました。賑わいづくりの視点から、パブリックスペースを有効活用した人々の交流のための工夫について多くの意見が出ました。持続可能な広場の管理運営方法や、市民が「やりたい」と思ったことを実現するためのサポートなど、仕組みづくりにまで踏み込んで議論されました。

松戸市による事業説明

新拠点ゾーンに関わる事業の概要や、現状の特徴と課題について説明を行いました。市民にとっての賑わいや憩いの場となることと同時に、地盤の安定した台地上であることから防災拠点としてのポテンシャルが見込める点等、ポイントとなる事項を述べました。

千葉大学による学生提案のプレゼンテーション



地元の大学生であり、まちづくりやランドスケープデザインの専門科でもある千葉大学大学院園芸学研究科より、新拠点ゾーンに関する研究・提案のプレゼンテーションが行われました。事業計画や2019年ワークショップ（MATUDOING2050）成果の読解研究から、新拠点ゾーンの計画には「新しいライフスタイルに対応し多様な活用の可能性を広げること」「日常利用や防災などオープンスペー

スの機能を高めること」「地域の特性を活かした空間をつくること」が必要であることを再確認しました。提案では、多様なアクティビティを展開できる大きな芝生広場や、街を彩る四季彩の丘、新たな取り組みが生まれる社会実験の場など具体的な空間像が盛り込まれ、松戸中央公園と相模台公園を含む敷地全体を一体的に捉えた大胆なプランが示されました。参加者が新拠点ゾーンの「使い方」のイメージをふくらませるきっかけとなりました。

横張 真 先生によるレクチャー



松戸が選ばれる街になるにはどのようなパブリックスペースが必要か、昨今のライフスタイル・ワークスタイルの変化における緑地の利用状況調査をもとにレク

チャーいただきました。在宅勤務者をはじめとした新たな緑地の利用者層が増えたことや、感染症リスクへの懸念から大きな公園・緑道・樹林地の需要が高まっている事がわかりました。新たな需要を踏まえて松戸の街の「使い方」を考える本ワークショップの心得として、常識にとらわれないこと、本当にほしい場を考えると、お互いの意見を否定しないこと、の3点を参加者にインプットしていただきました。

ワーキング① 街の「使い方」を考える



松戸のパブリックスペースをどのように使いたい、どのような過ごし方をしたいかについて考えました。

【STEP 1 ひとりで考える】

街の「使い方」のアイデアを書き出しました。

【STEP 2 ふたりで考える】

参加者同士でペアを組み、アイデアを発表し合って意見交換を行いました。

【STEP 3 みんなで考える】

最後に全体を2グループに分け、各グループで発表・議論を行い、街の新しい「使い方」のアイデアについてまとめました。



ワーキング② 新拠点ゾーンの「使い方」を考える



参加者全員で1つのテーマを囲み、ワーキング①で発想した「使い方」のアイデアを具体的に地図上に配置しながら、全体でひとつの成果プランを作成しました。

【成果プランのポイント】

- ・駅からの動線を明快につなげる。
- ・駅からの軸上には多目的に利用できる広場を設ける。
- ・アリーナや活用できるピロティ空間を設ける。
- ・屋内と屋外の間領域を設ける。
- ・大きな芝生広場を中心に据え、活動とにぎわいの拠点とする。
- ・道路空間もイベントで活用する。
- ・イベント等に使用できるインフラ（水栓や電源など）を点在させる。災害対応にも役立つ。
- ・パークコンシェルジュを駐在させ、広場を活用したい意欲的な人のサポートをできるようにする。
- ・プレイワーカーを駐在させ、プレイパークのように子どもも安全かつ自由にすごせる場とする。
- ・地域通貨ポイント制度を導入し、管理や運営などへの参画の対価とするなど、人が積極的に関わりたくなる仕組みを作る。
- ・設備や仕組みを整えることで「やりたい」を「できる」に叶える拠点とする。
- ・日常利用を促進することで災害時等非常時の拠点活用もより有効的になる。
- ・人、動線、みどりで街とつながる拠点をを目指す。
- ・新旧住民や学生など人のボーダーがない空間とする。



イベント	アウトドア冠婚葬祭
	小さなステージで楽器演奏、歌、芝居、手品、大道芸
	地元の人達が集まるお祭り・イベント
	フードフェスティバル
運動	クリスマスマーケット
	ヨガのスクールと大会
	サイクリング・ランニングの拠点施設
キャンプ	デイキャンプ
飲食	BBQ
コミュニティ	その場で出会った人と好きなモノ・コトの共有
	仲間と一緒にご飯を作る場
	市民の人の意見を簡単に聞ける場
	街と学生が交わる公共スペース
ワーキング	カップルでデートできる場
	電源がありPCを広げて作業できるスペース
	森の中で気分転換しながらテレワークできる場所
眺望	まちなかで学生がレポートを書くなど、ちょっとした作業スペース
音楽	松戸の風景を眺めることができる場
買い物	音楽フェスティバル
	マルシェ、キッチンカーで買う
休息	ミニ屋台で綿菓子、たこやき、焼きそば
	病気持ちの方や高齢の方のためのベンチ
個人の活動	芝生にシートを引いて昼寝や読書
	芝生の上に自分達で用意した椅子で座る
子供の遊び	気軽に個人がイベントを開催できる空間
自然体験	プレイパークのように遊びを教えてくれる人がいる場
コミュニティ・ガーデン	座ることができる切り株を用意する
	コミュニティガーデンを地域のひとと学生で共同でやる
ペット	ドッグラン
ハンモック	樹木間にハンモックを設置
施設	シェア店舗
	シンク付きのキッチン・シェアキッチン
インフラ・防災	フリーブースのためのインフラの敷設
	防災時にも活用できるインフラの整備
いきもの	馬の放牧地
しくみ	新しいチャレンジを受け入れる仕組みと場
	自然の利用（水・風など）

街の新しい「使い方」のアイデア（主なものを抜粋）